

「私の異文化体験」 ～熱気と商機のミャンマー～

初めてヤンゴン国際空港に降り立ったのは、2013年9月27日（金）、18:40。まさに黄金色に輝く太陽が金箔の寺院を照らしながら沈もうとしていた夕暮れ時でした。ミャンマー（以下、緬国）は、私にとって102ヶ国目の訪問国、渡航回数91回目となる処女地です。緬国は古くは「ビルマの豎琴」、新しくは今、世界から最も熱い視線と注目を集めている国のひとつです。訪問の主目的は、現在、海外ビジネスアドバイザーとして勤務している中小企業の緬国進出支援の一環とした輸入代理店・取扱店候補の調査でした。

当国で日本では見られない情景、10の不思議体験をしました。

体験1：至る所に仏院・お寺

日本のお寺、神社に相当する金箔で覆われた仏院（パゴダ）が至る所に建っています。遺跡都市バガンにはパゴダがなんと大小2,800あるそうです。国営もあるが民間人が自発的に建てたのも多いそうです。緬国人は功德を受けたら返す精神が強い。そもそもインドで誕生したお釈迦さまが緬国まで托鉢に来て、残したその髪の毛を祭っているのが仏院です。そして、仏院では床に額をこすりつけて祈り、今までの感謝と来世に夢を託すのです。



体験2：履物はサンダル・スリッパが主流

国民の約98%は靴を履いていません。雨期（4月から10月）には毎日雨が降り、道路が冠水するので靴では不便との理由。因みに、ヤンゴンでは下水普及率38%。加えて、靴は高く、経済的な負担もありそうです。また、寺院にお参りにする際、必ず素足にならなければならないため、サンダル・スリッパだと便利という側面もあります。



体験3：顔に日焼け止め（タナカ）

頬にくっつきり白いペンキを塗っているのを最初に見た時異様な感じがしました。実は、日焼け止め対策に政府も推奨しているそうです。現地の言葉で「タナカ」。(覚えやすい) これ用の木を水と混ぜて擦り液状にして塗るのです。
(写真：観光客向け絵描き女性の頬に注目！)

体験4：怖いサイカー（自転車タクシー）

名前の由来は、二人乗せられる「サイドカー」からきています。フィリッピンやタイなどではバイクや三輪車で有名な「サブロー」「ジプニー」と呼ばれるタクシーには乗った経験はありまし

たが、自転車のサイカーは初経験。大人を二人乗せ、ひどいドシャ降りの雨の中、傘をさして狭い道でダンプカーとすれ違った時はさすがに生きた心地はしませんでした。世界中で最も怖い、最も乗り心地の良くない乗り物と感じました。

体験5：ロンジー（腰巻）の世界

当国ではロンジーはフォーマルの人たちが纏っています。

よくテレビで政府高官やアウンツェ・アウサン・スークが纏って内外の要人と会っているのを見、不用心、活動しにくいと逆で風通しがよく、蒸れない、は口を揃えて言っていました。



な服装です。男女約半分

サンズーチーさんが纏をみかけます。

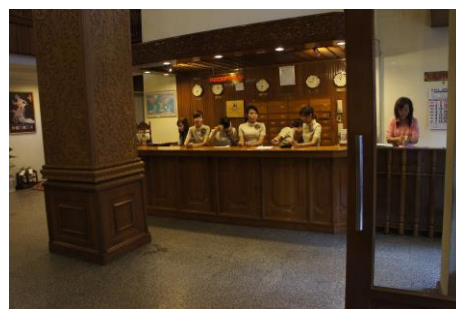
思われがちですが、その快適そのものと緬国人

体験6：水・氷が危ない！

当国の地方、村の人々はいまだに雨水を貯め、沸かして飲み水としている人が多い。都会の屋台や露店では汚い水で皿やコップ洗いそのままテーブルに出しているのを何度も目撃しました。食堂で本料理の前に必ず出る突き出しの「生野菜」は見るからに新鮮で美味しそうですが、一発でおなかを壊すので“外国人は絶対食べるな”と現地ガイドに厳しく止められました。

体験7：人件費（中国の1/5）、物価が安い（日本の約1/10）

人件費が安い精か、働いているスタッフがどこでも多い。例えば、宿泊したホテル（3つ星）の受付は、7～8名。さしずめ、日本だと1～2名が普通です。ワーカーの月給は平均2万～3万円、マネジャークラスで5万～6万円。また、すべての物価が安い。特に居酒屋やレストランでの飲食は日本の約1/10。3人でビール、ワインをしこたま飲んでもひとり500円～1千円位。



体験8：料理は概して辛い

料理は中華料理が主体ですが、辛いのが多い。世界3大スープの一つ・タイ料理「トム・ヤン・クン」の辛さは頭から汗が噴き出て、ビールを口に流し込まないと食べられないほど強烈でした。また、「パクチ（日本のセリ、毒消し）」はほとんどの料理に入っています。芋虫みみたいな臭い匂いが苦手な人は食べるものが限られるかもしれません。私は大好きで別皿にもらってツマミにしていました。

体験9：テレビも番組も中国・韓国が独占！

電気店ではテレビはサムスンやLGが飛ぶように売れ、フジやサクラなど日本の名前を付けて中

国製がこれに続いて売られています。(あえて日本名にしているのは、日本製・高品質をアピールするため)。ソニーやパナソニックなど日本製品は高く売れていない。

驚いたことにテレビ番組面でも中韓勢が圧倒していることです。ドラマは韓流一色。ニュースは中国語。日本の番組は30年前の「おしん」以来、放映されていないそうです。日本番組は日本人目線・文化のものが多く、ここでもガラパゴス現象(グローバル仕様でない)のようです。

体験10：若い国(平均年齢26歳)、女性が大活躍

企業・オフィスでは働く女性は若いひとが多い。日本人の感覚では中学校卒業生にしか見えないが、実際は20歳～30歳とのこと。また、各企業、課長・次長クラスは殆ど女性、女性の社会進出は日本より進んでいると感じました。

(写真：女性マネジャーと商談中の筆者・左)



ミャンマーは、2013年東アジアスポーツ大会、2014年アセアン(東南アジア諸国連合)会議議長国、2015年総選挙(世界的に有名・高名なアウンサンスーチーさんが立候補予定、写真：自宅前にて)とビッグイベントが目白押しです。その経済効果は計り知れないものがあります。

多くの来訪者や観光客に備え、道路や寺院など実に綺麗でした。道路や寺院にごみ、紙屑など落ちていない。インドやアルゼンチンなどと比較して格段に清潔です。よく掃除をしている人見かけました。また、走っている車、大部分は中古日本車も綺麗で新しい車が多く、ガタガタのポンコツ車は全く見かけませんでした。



2年前、軍政から民政に移管、欧米が経済制裁を解禁したのを機に、世界中の企業がバスに乗り遅れまいと殺到しています。

だが、殺到する外国資本、観光客にインフラが追い付かない。水、電力、オフィスが足りない、外国語を話す人が少ない、高いなど問題も山積しています。

しかし、日本国土の約2倍の広さ、豊富な労働人口、平均年齢26歳の若い国、高い識字率、中国5分の1の安い人件費、真面目な国民性、親日、豊富な資源。間もなく、中国に代わって世界の製造拠点、消費市場になる残された最後の「宝の山」だと実感した異文化体験でした。

そして、現在の緬国変貌を「ビルマの堅琴」の水島上等兵がみたらどんな印象を持つだろうかと思いつく興味つきない旅でもありました。完

2013/10/12 放友会 肥後 照雄・記